

平成30年度

全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要



平成30年10月

柳川市教育委員会

平成30年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

－ 目 次 －

I 調査の概要	2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査内容	
II 学力調査結果の概要	
全国学力状況調査の結果	3
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学、理科）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学、理科）	
福岡県学力調査の結果	6
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
III まとめと今後の取組	8
1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針	
2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題	
3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想	

※ 付記

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び平成30年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果以下のホームページにてご参照ください。

○ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」 URL：<http://www.nier.go.jp/>

○ 福岡県学力調査の結果（福岡県教育委員会ホームページに掲載予定）

福岡県教育委員会 義務教育課

「平成30年度全国学力・学習状況調査調査結果報告書・福岡県学力調査結果報告書」

URL：<http://pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/21321051/>

平成30年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

○ 全国学力・学習状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校（全 19 校） 第 6 学年の児童 521 名 ・ 中学校（全 6 校） 第 3 学年の生徒 535 名
○ 福岡県学力調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校（全 19 校） 第 5 学年の児童 529 名 ・ 中学校（全 6 校） 第 1 学年の生徒 507 名 ・ 中学校（全 6 校） 第 2 学年の生徒 512 名

3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
○ 全国学力状況調査	平成 30 年 4 月 17 日（火）	国語（小・中）、算数（小）、数学（中）、理科（小・中）
○ 福岡県学力調査	平成 30 年 6 月 19 日（火）	国語（小・中）、算数（小）、数学（中）

4 調査内容

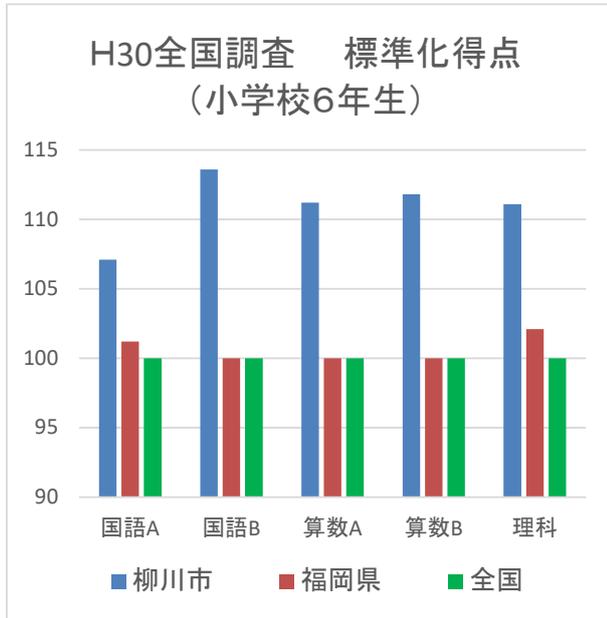
<p style="text-align: center;">主として「知識」に関する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査 [国語 A、算数・数学 A、理科・知識] ○ 福岡県学力調査 [国語、算数・数学 基礎問題] 	<p style="text-align: center;">主として「活用」に関する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査 [国語 B、算数・数学 B、理科・活用] ○ 福岡県学力調査 [国語、算数・数学 活用問題]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身につけておかねばならず、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践・評価する力などに関わる内容

II 学力の結果

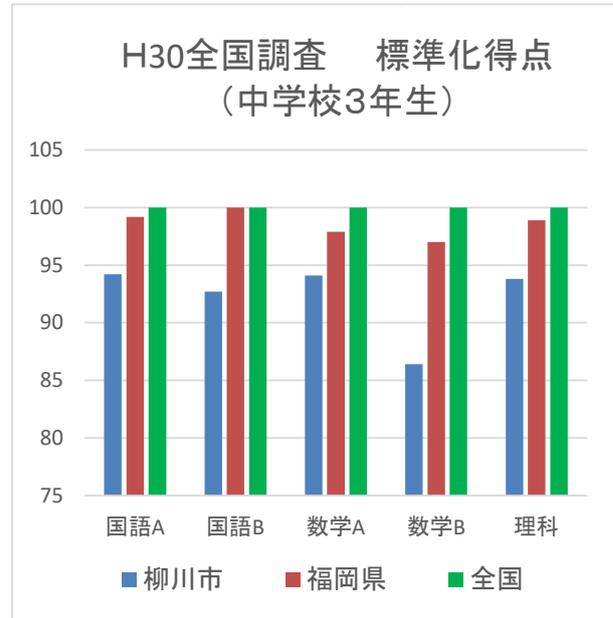
全国学力状況調査の結果

1 柳川市の標準化得点の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

小学校



中学校



小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	中学校	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
柳川市	107.1	113.6	111.2	111.8	111.1	柳川市	94.2	92.7	94.1	86.4	93.8
福岡県	101.2	100.0	100.0	100.0	102.1	福岡県	99.2	100.0	97.9	97.0	98.9
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体の状況】

- 小学校は、国語・算数のA問題・B問題、理科すべてが全国を上回り、29年度より向上している。（国語A+7.1ポイント 国語B+13.6ポイント 算数A+11.2ポイント 算数B+11.8ポイント 理科+11.1ポイント）。
- 中学校は、国語・数学のA問題・B問題、理科のすべてが全国を下回り、29年度より全国との差が広がっている。（国語A-5.8ポイント 国語B-7.3ポイント 数学A-5.9ポイント 数学B-13.6ポイント 理科-6.2ポイント）
- 平均無回答率（回答していない問題）は、小学校では国語・算数・理科とも全ての問題において全国より少ない。中学校では無回答率が全国より多い。特に、国語Aと数学Bの無回答率が高い。

【小学校】

- 国語のA問題では全国を7.1ポイント上回り、B問題では13.6ポイント上回った。29年度と比べると、特にB問題の伸びが見られた。
- 算数のA問題では全国を11.2ポイント上回り、B問題も11.8ポイント上回った。A・B問題ともに29年度よりさらに伸びている。
- 理科は、全国より11.1ポイント上回っている。

【中学校】

- 国語のA問題は全国より5.8ポイント、国語B問題は7.3ポイント下回った。昨年度と比べてA問題の差が広がった。
- 数学のA問題では全国より5.9ポイント、B問題では13.6ポイント下回った。29年度と比べて差が広がった。
- 理科は、全国より6.2ポイント下回っている。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学、理科）

（1）小学校国語

【国語A】

- 「漢字の読み・書き」については、全国を上回り、相当数の児童が習得できている。
- 「相手や場に応じて適切に敬語を使う」については、全国を20.0ポイントも上回り、良好である。
- 「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」にやや課題がある。

【国語B】

- 「話し手の意図を伝えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」は、全国を29.6ポイントも上回り、理解度が高い。
- 「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」は、全国を20.1ポイントも上回り、高い理解を示している。
- 「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」は、全国を19.3ポイント上回り、高い理解を示している。

（2）小学校算数

【算数A】

- 14の問題の内、13の問題が全国を上回っている。全般的に理解の定着が進んでいる。
- 特に「小数の除法の意味について理解」の問題は、全国より44.4ポイントも上回り、非常に良好である。
- 「百分率を求める」問題は、全国より23.1ポイントも上回り、良好である。
- 「除法で表すことができる二つの数量の関係を理解する」は、全国を3.8ポイント下回り、やや課題がみられる。

【算数B】

- 「棒グラフと帯グラフから読み取れることができることを、適切に判断する」は、全国を21.3ポイントも上回り、良好である。
- 「数と計算」領域において「示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述する」は、全国を17.3ポイント上回り、理解の程度が高い状況にある。
- 「数量関係」領域において「示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現する」は、全国を11.6ポイント上回り、良好である。
- 「示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める」で全国を9.9ポイント上回っている。

（3）小学校理科

- 「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用する」は、全国を40.7ポイントも上回っている。非常に良好である。
- 「骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解する」は、全国を14.6ポイント上回っており、良好である。
- 「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる」は、全国を17.3ポイント上回り、良好である。

(4) 中学校国語

【国語A】

- 「書くこと」領域において「書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する」では、全国を1.3ポイント上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」領域において「話合いの話題や方向を捉える」は8.3ポイント、「話合いの話題や方向を捉えて文脈上の意味を捉える」は11.7ポイント、全国を下回り、課題である。
- 「書くこと」領域において「段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする」が全国を8.7ポイント下回り、課題である。

【国語B】

- 「書くこと」領域において「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」は、全国を0.7ポイント上回った。
- 「話すこと・聞くこと」領域において「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」が全国より20.2ポイントも下回り、大きな課題である。
- 「読むこと」領域において「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」が全国より16.3ポイント下回り、課題が大きい。

(5) 中学校数学

【数学A】

- 「数と式」領域において「連立二元一次方程式」の問題が、全国を5.1ポイント上回っている。
- 「資料の活用」領域において「多数回の試行の結果から得られる確率の意味理解」が全国より30ポイントも下回り、大きな課題である。
- 「図形」領域において「証明の必要性和意味理解」は22ポイント、「関数」領域における「一次関数」は14.3ポイント、全国を下回り課題である。
- 「関数」領域において「与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める」「一次関数の意味理解」が全国平均正答率より14ポイント下回っており課題である。

【数学B】

- 「数と式」領域において「事柄の成り立つ理由を、構想を立てて説明」の問題が、全国を0.3ポイント上回っていた。
- 「関数」領域において「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明」が全国より49ポイントも下回っており、大きな課題である。
- 「資料の活用」領域において「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する」が全国より47ポイントも下回り、大きな課題である。
- 「図形」領域において「付加された条件下で、新たな事柄を見だし、証明する」が全国を25ポイントも下回っており、大きな課題である。

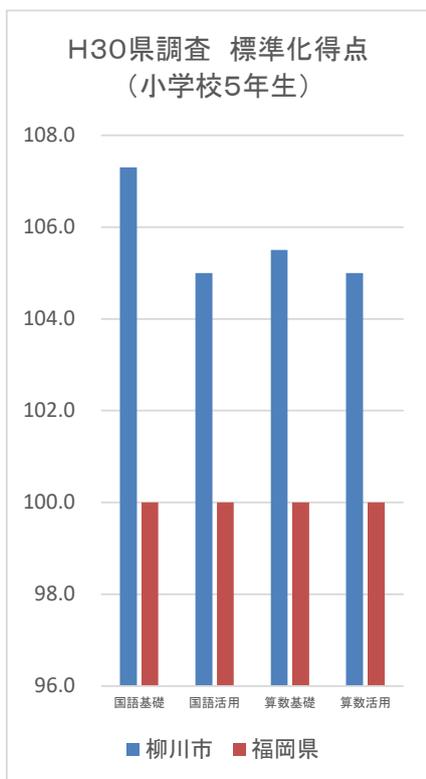
(6) 中学校理科

- 「生物的領域」において「無脊椎動物と軟体動物の体のつくり」と、「地学的領域」において「台風の進路を決める条件」は、全国とほぼ同等であった。
- 「化学的領域」において「濃度が異なる食塩水のうち濃度が低いものの指摘」「濃度が異なる食塩水のうち特定の質量パーセント濃度のものの指摘」の問題は、全国より9.7～17.1ポイント下回り、課題である。
- 「生物的領域」において「1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因の指摘」は14.7ポイント、「神経系の働き」は25.7ポイント全国より下回り、大きな課題である。
- 「地学的領域」において「太平洋高気圧の特徴についての理解」は、全国平均正答率より12.8ポイント下回り、課題である。

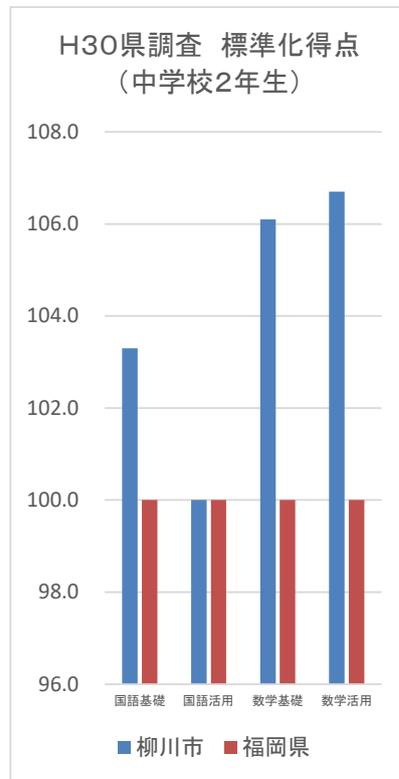
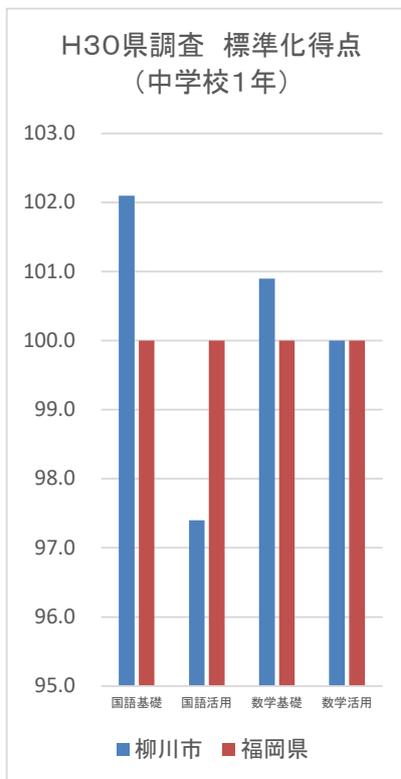
福岡県学力調査の結果

1 柳川市の標準化得点の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

小学校



中学校



小学5年	国語基礎	国語活用	算数基礎	算数活用
柳川市	107.3	105.0	105.5	105.0
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	7.3	5.0	5.5	5.0

中学1年	国語基礎	国語活用	数学基礎	数学活用
柳川市	102.1	97.4	100.9	100.0
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	2.1	-2.6	0.9	0.0

中学2年	国語基礎	国語活用	数学基礎	数学活用
柳川市	103.3	100.0	106.1	106.7
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	3.3	0.0	6.1	6.7

【全体の状況】

- 小学校5年生においては、国語、算数の基礎・活用問題の全てが県を上回っている（+5.0ポイント～+7.7ポイント）
- 中学校1年生においては、国語の活用は県を下回っているが、国語の基礎、数学の基礎・活用は、県を上回っている（+0.0ポイント～+2.1ポイント）。
- 中学校2年生においては、小学校5年生と同様に、国語、数学の基礎・活用の全てが県を上回っている（0.0ポイント～6.7ポイント）。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

(1) 小学校5年生

【国語】

- 「接続語を使って内容を分けて書く」「人物の描写を叙述をもとに読み取る」「漢字を書く」が、県を大きく上回っている。
- 「ローマ字を書く」「文章の内容を的確に読み取る」が、県を大きく上回っている。
- 「人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」は、県を上回っている。

- 「目的や意図に応じ、引用して書く」が10.3ポイント、「文章の内容を的確に読み取る」が2.0ポイント、県を下回っている。

【算数】

- 「図形」領域の「立体図形の辺や面の位置関係」が、県より17.2ポイント上回っている。
- 「量と測定」領域の「 m で与えられた長方形の面積を a （アール）で表す」が16.8ポイント、「面積から長方形の縦の長さを求める」が11.1ポイント、県を大きく上回っている。
- 「数量関係」領域の「二次元表を読み取り、マスの意味を指摘し、冊数を求める」と「計算のきまりを使って、四則混合計算」が県より14.1ポイント上回っている。
- 「図形」の領域の「表をもとに、道路標識の高さ」が、県より3.5ポイント下回っている。

(2) 中学校 1 年生

【国語】

- 「言語」の「漢字を書く（経過）」が22.5ポイント、「漢字を書く（往復）」が13.4ポイント、県を大きく上回っている。
- 「言語」の「文の中の主題を捉える」が県より4.8ポイントを上回っている。
- 「読むこと」の「登場人物の相互関係を捉える」が県より7.6ポイント下回っている。

【数学】

- 「数と計算」の「図をもとに、基準となるテープの文数倍にあたる比較量を求める」が県より16.5ポイント上回っている。
- 「数量関係」の「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ」が、県より8.1ポイント上回っている。
- 「量と測定」の「平行四辺形の面積を求めるために必要な部分を正確に理解する」が県を10.1ポイント下回っている。

(3) 中学校 2 年生

【国語】

- 「話すこと・聞くこと」の「対談の展開について整理する」が、県より18.7ポイント上回っている。
- 「言語」の「漢字を読む（稚魚）」が17.4ポイント、「漢字を書く（建設）」が11.5ポイント、県を上回っている。
- 「言語」の「楷書と行書の違いの理解」が18.4ポイント県を下回っている。
- 「読むこと」の「読み取った情報を根拠として自分の立場を明確にして意見を書く」が、県を18.5ポイント下回っている。

【数学】

- 「資料の活用」の「与えられた情報を選択し、数学的に表現する」が、県を31.5ポイント上回っている。
- 「関数」の「反比例の関係を表す表から解きに表す」が、県を21.8ポイント上回っている。
- 「数と式」の「数量の関係を捉え、方程式をつくる」が、県を16.9ポイント上回っている。
- 「数と式」の「中央値の意味理解」が県を5.0ポイント下回っている。

Ⅲ まとめと今後の取組

1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針

柳川市教育大綱、教育施策に基づき、小・中学校9年間にわたって「学ぶ目的意識の醸成」を図りながら、確かな学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）を身につけさせ、未来の柳川を担う子どもを育成すること。

2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題

（1）小学校

- ・ 全小学校において模擬授業等の事前研修が実施されており、そのことが実践的・具体的な研修となり、学力向上への要因のひとつと考えられる。
- ・ ノートに「めあて」や「まとめ」を書かせたり、本市の小学校が取組んでいるノートの書き方を指導したりしたことが効果を上げてきている。また、重点目標達成に向けた週案を有効に活用していることがうかがえる。

（2）中学校

- ・ 全中学校において調査結果から「めあて」と「まとめ」、「振り返り」のある授業の実施が向上してきている。各中学校での授業改善や生徒による授業評価が進んできている。
- ・ 教科間、学年間の格差が大きく、教師の授業力のさらなる向上が課題である。授業研究を伴う研修の強化が求められる。また、全職員による結果分析や課題の共有がさらに必要である。

（3）小・中学校共通

- ・ 本市が重視している計画・実施・評価・改善の教育活動が各学校で実施され、特に小学校においてしっかりと推進されており、学力向上に結びついていることがうかがえる。
- ・ 全校において学力分析から確実に学力を向上させるための取組指標や成果指標等の学力向上プランが策定され、取り組まれている。
- ・ 中学校区内において、全国学力調査や県学力調査等の様々な結果（定期テスト、学力テスト等）を分析し、情報を共有しながら9年間見通した児童・生徒の育成が求められる。
- ・ 小・中学校共に、自分によいところがあるという意識が全国に比べて低い傾向を示しており、自尊感情の醸成が求められる。真に児童・生徒の活動を価値付けたり、意味づけたりする必要がある。

（4）家庭との連携

- ・ 家庭における計画的な学習の進め方の確立や学習時間の確保、家での読書時間の確保が求められる。
- ・ 本市の児童・生徒の携帯電話やスマートフォンの所有が増える中、それらの使用についてのルールが不十分な傾向が見られる。テレビ視聴時間を含めて、家庭において早急にルールを決めていく必要がある。

3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想

(1) 柳川市教育委員会

- ・調査結果の分析
- ・学力向上の基本構想の策定
- ・各学校の取組状況の確認・指導
- ・学力向上のための指導主事派遣
- ・研修・啓発資料の作成
- ・授業時数実施状況の確認
- ・9年間を見通した小・中学校の共通実践

(2) 小学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・教材研究の力を向上させる校内研修の充実(模擬授業等の事前研究会の工夫)
- ・中学校とのつながりを意識した教育活動の実施
- ・若年教師の授業力の向上を図る研修会等(OJT)の実施

(3) 中学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・模擬授業や事例研究を含めた授業を伴う実践的な研修の実施
- ・生徒自ら課題を設定し、解決していく授業作り
- ・全職員による自校の学力分析と学校全体での改善
- ・週案の定着と活用
→教育課程の記録簿から計画簿への移行、教育課程の確実な計画、実施、評価

(4) 小・中学校共通の取組

【各小・中学校で共通で実践する項目】

<小学校>

- ◎教育課程の質的管理
 - ・「週案作成の手引き」の活用 ・事前研の効果的・継続的な実施
- ◎特別活動の重視
 - ・代表委員会活動の充実 ・学校行事の見直し(地域資源の積極的取り込み)
- ◎国語科教育の充実
 - ・校内研修(一般研修等)への位置づけ ・一単位時間の学習のまとめの徹底

<中学校>

- ◎教育課程の量的管理
 - ・単元指導計画の作成と有効性の検証 ・週案による事績管理(授業時数確保を含め)
- ◎特別活動の重視
 - ・リーダーの継続的育成 ・地域行事への積極的参画
- ◎定期考査問題の検討会の実施
 - ・各教科毎に教科検討部会の実施

【教育課程外において】

- ◎補充学習の充実
 - ・評価に基づく補充学習の充実
 - ・各学校教育課程外に位置づけているドリルタイム、補充の時間の充実
- 家庭学習の充実
 - ・家庭学習をしない児童・生徒0%を目指す取組の充実(授業との連動、確実な見取り、保護者との連携等)
 - ・携帯電話やスマートフォン使用に関するルールの啓発

平成30年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

『調査結果報告書(柳川市)』

平成30年10月発行

発行者 柳川市教育委員会
福岡県柳川市三橋町正行431番地
電話0944-77-8852(教育指導室)
